

府中市健康地域づくり審議会  
第8回熟年元気づくり分科会 報告書

- 1 日 時：平成27年3月13日（金）9時28分から10時50分
- 2 場 所：市役所2階第一応接室
- 3 出席者：中野悦成（分科会会長） 原田弘子（分科会副会長）  
重森由枝（分科会委員） 前原裕吉（分科会委員）  
藤本命壮（分科会委員） 佐藤真二（分科会委員）  
宮口英昭（分科会委員）
- 4 欠席者：寺岡 暉（職権委員）

5 概 要

(1) 開 会

(2) 分科会長あいさつ

今年度4回目の総括的な分科会となる。毎回、委員の皆様からは、御自身の活動を通じた御意見をいただいております、非常に参考になることばかりである。

この分科会は、高齢者が人生の終末期を迎えるまで、生きがいを持って暮らせる多種多様な地域づくりということだろうと思われる。地域づくりの現状をよく見て、積み上げていくことが求められているのではないかと考えている。

本日は、府中市地域福祉計画の内容の確認と、来年度の分科会の活動について、元気高齢者がますます増え、府中市の地域福祉がより一層きめ細やかに行きわたるような仕組みづくりをしていくという論議を進めていきたいと思っている。皆様の活発な御意見をよろしく願います。

(3) 議事

① 府中市地域福祉計画について

●関連資料の説明

事務局から府中市地域福祉計画について、計画案冊子及び資料により提案・概要説明を行い、内容の承認を求めた。

●質疑・意見交換

【主な質疑・意見】

○計画の周知について、どういう形で行うのか。策定してそれで終わりにならないようにしなければならない。

○実際に地域で活動されている人へ配布するのが効果的なので、配布先を精選した方がいい。

- 顔の見える行政が大切なので、せっかく策定した計画やその他の情報を周知することとあわせて、受け手となる市民も収集する努力が必要。
- 役員など役割を持つ人ばかりでなく、趣味でやっている人など、元気になるような身近な活動を紹介する機会があっても良いのではないか。

- 府中市地域福祉計画の承認  
委員全員により承認された。

## ② 平成27年度の取り組み等について

### ●関連資料の説明

資料により、平成26年度の分科会活動における進捗状況及び事業の総括について再度確認を行った。また、政策指標「元気高齢者の増加と要介護期間の短縮」に関する具体的な指標についての提案を事務局から行い、様々な地域の多様な実情に沿う「地域づくり」を進めるために必要な新たな手段等について意見を求めた。

### ●質疑・意見交換

#### 【主な質疑・意見】

- 回覧版を世帯のうち一人しか読んでいないという状況があり、回覧版による広報周知の欠点となっている。
- 数値目標である「元気高齢者」という定義は、要介護認定を受けていない人ということか。
- 特定健診の目標値と元気高齢者の数値目標は、関連するものではないのか。
- 生きがい創業ビジネス補助金制度について簡潔にまとめたものを、早期に町内会へ回覧し、募集へ繋げる必要があるのではないか。
- 足腰が悪くなると、家から出られなくなり友達とも疎遠になり活動出来なくなる。とにかく、健康、特に足腰が大切だと感じる。
- 自分が指導者として活動することはできないが、若い人で能力のある人に属することで元気を出そうと思える。
- 仕事をしているうちから、若いうちから、健康づくりと生きがいづくりをしておかなくてはならない。
- アルミ缶の資源回収を元気高齢者づくりの事業として認めることはできないか。

- 来年度の予算で、次へ繋がるテスト事業を取り込んではどうか。
- 小さくもいいので、活動していらっしゃる方々の様子や思いを紹介し、小さな活動に光を当てていってみてはどうか。

#### (4) 閉 会

事務局のまとめとして、地域福祉計画について確認・承認をいただいたこと、また、本日の分科会の内容について健康地域づくり審議会へ報告させていただくことを述べた。

原田副会長から、画一的なサービスの提供では市民が満足できないのは明白で、どのようにして政策と住民の満足度を縮め擦り合わせていくかが地域政策の課題になってくるのではないか、よって、こちらから何かを提案するよりも、市民の動きに合わせてそれを政策にしていくことが大切であると挨拶があり、閉会とした。

以上